

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200996		
法人名	特定非営利活動法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホーム さやか		
所在地	神戸市西区和井取3番12号		
自己評価作成日	H23/3/29	評価結果市町村受理日	2011年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8 アメニティ川西ビル104号
訪問調査日	2011年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者の生活が拘束されない事 ご利用者主体で要望時などタイムリーな支援を行えるよう工夫しているところ</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はJR明石駅から車で15分の現住所に移転して、約半年経った。建設中に利用者と共に見に行ったり、隣の部屋の人を前のホームと同じ人にし、居室内は前の部屋の配置をほぼ再現する等の工夫をし、移転による混乱を避けた。利用者も新しい環境に慣れてこられている。自己決定を尊重し、小さいことでも職員が決めないで、まず利用者に見逃さないよう心がけ、職員間も気軽に気付きを伝えあえる関係を築けるようにしている。移転後の新しい地域は若い住民が多く、自治会も未整備で関係作りが課題となっている。地域との関係は地域住民と何と一緒に出来るかを考えていくことが重要であり、法人の持てる力を活用した新たな働きかけを期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事業所の理念とし入職時に理念研修を行い日々の生活を支援している。	法人の理念を事業所の理念として年間研修で取り上げ、共有を図っている。利用者の自己決定を促し、強制しないでその人らしく過ごしてもらうよう理念の実践に努めている。昨年度は事業所職員間で、職員が楽しそうにすると利用者も楽しくなるとの思いから「笑顔を2倍にする」目標を立て取り組んできた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	引越しの際の挨拶はしたがそれ以上の関わりはまだ出ていない	地域に若い人が多く住んでいて、子ども達が紙芝居を見せたいとか、中学校の音楽会への招待等がある。トライアルウイークの受け入れも今年度から始まる予定であるが、地域住民とのつながりは未だ出ていない。事業所では今後関わりが持てるよう、地域へ出向いていくことを検討している	民生委員や近隣の住民から地域の情報をもらったり、協力し合える関係作りの推進を望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々と話し合いを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実地し交流を深め意見交換をしている	地域包括支援センター、区役所保護課職員(生活保護の関係から参加)、入居者、さやか職員で定期的に行っている。当地に転居して、半年経ったが地域からの参加は未だない。入居状況や生活の様子等の報告、地域包括から地域の情報提供、職員の研修や利用者の対応等質疑応答の時間も設けている。	地域の協力と支援を得るため、会議に地域代表が参加されるよう、働きかけられることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて行き来し相談などをさせてもらっている	生活保護のケースワーカーとは連携を密にしている。引越しに当たって、市に相談をした。	地域との連携が取りにくい点等事業所の実情を市に理解してもらい、共に課題解決に取り組む協力者として期待できないだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時、研修を行い、施錠はせずに職員がご利用者につかせて頂き、ケアを行っている	身体拘束についての研修を行っている。施錠はしておらず、職員が利用者の気配で対応している。そのリスクについても家族等に説明、同意を得ている。言葉による拘束についても、利用者の気持ちへの配慮に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に教育を受けて注意している	高齢者虐待について、研修を行っている。一人で抱え込まないよう、職員同士が協力している。勤務時間も個々の希望に沿うよう心がける等働きやすい配慮がなされている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	見寄りのない方や生活保護の方など、区役所のケースワーカーなどと相談し色々な方に利用できるように努めている	研修は行っていないが、現在成年後見制度、日常生活自立支援事業を利用されている入居者がいて、職員も一緒に関わる中で知識を得ている。家族等には必要に応じて説明している。	職員は基礎知識を学び、今後もより一層利用者の思いに寄り添っていただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分理解して頂けるように細かな説明はしている。不安や疑問に思う点は尋ねるなどして理解、納得して頂いている	事前に入居のご案内を渡し、見学、必要に応じて体験してもらっている。契約時は契約書、重要事項説明書をもとに2~3時間かけて説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限り、ご利用者の声を聞いて出来る事、出来ない事の説明をしニーズ経営に反映させている。定期的に運営推進会議を行い参加者等の呼びかけをし、家族の来所時、意見や不満などないか聞いている	利用者の声を聞き、個々の望むことの実現に努めている。家族等には事業所移転のような大事なことは家族会を開いて説明している。日々の連絡や報告は家族に合わせて、Fax、メール、電話で行い、意思疎通を図っている。運営に反映させるような意見は上がっていない。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や全体会議を行い、意見を聞いている。ナイスアイデアボードに意見や提案を発言する場を設けている。	ボード(掲示板)やカードを使って、職員同士で感謝の気持ちや利用者との関わりで生まれたいいお話を伝え合ったり、催しやその他の情報提供をしている。利用者にゆっくり入浴してもらうため職員の勤務時間を変更したり、日々の思い出の写真を貼る等職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を設定しその目標の達成に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は新人研修を行い、また年間を通じてスキルアップ試験を実地しスキルアップの向上を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネージャー、福祉用具専門員などと連絡を取ってケアの向上を目指している		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度困っている事、不安な事については本人と話し合い、体調にも配慮しながら受け止めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り、家族の意思に沿うように不安や要望に対応している		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として出来る事、出来ない事を初期訪問時に説明し本人に合ったサービス内容を提案している		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループの理念を念頭にご利用者からの敬意の念と教えて頂くという気持ちで関わらせて頂いている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との相談、共に支えていくとの考え方から、ご利用者支援を行っている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのある方のご利用者の接点が継続出来るように支援している	馴染みの食べ物を通販で取り寄せたり、手作りしたり、甲子園へ野球観戦に行ったり、好みの歌手のコンサート等へも出かけている。美容院や病院、飲食店にも継続してでかける等の支援がなされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う五里余社同士、共に食事をしたり外出したりする工夫を行っている		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内や年賀状を送付している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人もしくはご家族の方に話を聞き出来る限り意思を添う添うように努めている	ホームで何がしたいか、何に困っているか等職員と1対1でゆっくり話し合い聞き取っている。記録して毎月のミーティングで検討している。聞き取り困難な方は表情やしぐさで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人もしくは家族から情報を得るようにしケース記録や介護計画で経過を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や送りノートを使用することによって現状を把握しやすいようにしている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを実地したり意見交換をしたり作成している	全職員で話し合い、担当職員が原案を作っている。家族、医師、看護師、文化教室の講師等の意見も参考にしている。計画作成者が原案をもとに意見を取り入れ修正している。見直しは原則6ヶ月。介護計画が日々のケアに結びつくよう、個別ケース記録に毎日チェックを入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や特記はケース記録に記入している。介護計画の見直しの際はモニタリング用紙を使用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてその都度相談させて頂き一番良い方法を考えている		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の希望や楽しみに合わせてボランティアの活用をしている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診されている所へ受診して頂いています。それ以外は協力医の受診や紹介状で別の医療をうけている	かかりつけ医に関する希望を入居時に利用者と家族から確認しているが、往診がある協力医に変更となっている。他科受診などは家族の協力を得ながら、職員送迎や職員同行なども行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や不安な事は看護師の出勤時に伝えてもらい判断してもらっている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご利用者の不安を取り除き安心して治療にあたるようにお見舞いに行っている。その都度医師や看護師から情報を得ている	入院時には病室まで付き添って利用者の不安軽減を図り、治療中は情報などを入手して関係者との連携に努めている。退院が近づくとき受け入れ態勢を整え、退院後の生活上の注意事項を職員全員が共有し、早期退院の支援に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、協力医、職員とで本人にとって良い対応を話している	契約時に事業所でできることできないことを説明し、終末期の過ごし方に関する利用者と家族の意向を確認している。9年間に3名の看取り介護を行ったが、現在も重度化された利用者がある。職員全員で前向きに検討し、きめ細かな配慮を心がけて介護に当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に救急救命の講習を受けている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に来て頂き2ヶ月に1度避難訓練を行っている	昨年は、4回の消防署立会い訓練を含め9回の訓練を実施した。夜間想定訓練では、利用者同士も声を掛け合いながら避難経路を確認した。災害時に対して水や食材などを備蓄している。	非常時に近隣住民の協力が得られるように、事業所側から地域へ働きかけるよう運営推進会議等で検討されてはいいか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊敬を大切にしながら、対応にはくれぐれも注意している	利用者の本音を本人のしたいこととして受け止め、できる限りかなえていくよう心がけている。一人ひとりと向い合うことの大事さを職員全員が自覚し、個別ケアに努めている。各居室のガラスの小窓は内側からも閉めることができ、職員も随時そっと見守ることが出来るようになっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々なアプローチからご利用者が自己決定出来るように支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールではなくご利用者主体のものとして一人一人の個性を重視してその日その日で本人の希望で過して頂けるように支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを意識出来るように必要な備品は用意している。理容、美容に関しては本人の望む店にいたり、施設まで来て頂いている			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日その日でメニューを決め調理を行いご利用者が出来ない事を一緒にしている	毎回、食事準備前に利用者の希望を聞き献立を決定している。朝食のパンは前日に利用者とともに材料を用意し、焼き立てを食している。職員も利用者とは話を楽しみながら同じ物を一緒に食べている。食器は利用者個々に洗って片付けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べたい物を提供しつつ、ある程度、栄養バランスに配慮した食事作りを行い、一定量の摂取が難しい方に対し食事量のチェックを行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者、個々の状態に応じて口腔ケアを行っている			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解し時間を見ながらトイレ案内や排泄交換を行っている	現在は5人の利用者が自立している。的確な排泄誘導は尿意が戻ることにつながるので、個々の排泄パターンを把握し、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず食物繊維や乳製品を奨め日中は身体を動かして頂く事で便秘予防を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせていつでも入浴できるように対応している	自力入浴可能な利用者には10時～21時の間で自由に入浴してもらっている。介助が必要な利用者は日中の入浴となるが、利用者の状態によっては、デイサービスの機械浴を利用するなど快適な入浴方法を選んでいる。浴室の入口に「ゆ」の暖簾を掛け、雰囲気づくりを図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共用スペースでは居心地のよい生活の場を提供するため環境作りを行っている。居室について個人の家であるとの認識から自由に使える様プライバシー等の配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用目的や副作用についての理解に努め症状の変化については職員同士が申送りの中で情報交換している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得た情報をもとに職員一人一人に合った話題作りを行っている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美容院への外出支援やご家族の希望により一緒に外出や食事を実地している	利用者は揃って散歩に出かけるが、利用者一人はGPSをつけ自由に歩いている。使いたい物やほしい物を自分で選ぶ喜びを感じてもらうため、その都度買物支援を行っている。コンサートや観劇にも出かけ、妹の病気見舞いのため神奈川県まで職員が同行したこともある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や金銭管理に対する理解があれば金銭の所持して使っている。外出等の機会を作りお金を使うことで日常生活支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や利用者の希望があれば電話できる体制を整えている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎日清掃しており設備に対し不備が見つければ早急に改善し利用者がくつろげる環境を提供している	事業所内の通路は小学生の通学の近道になっており、広いガラス戸から子どもたちの元気な姿を見ることができる。玄関前と裏口前に木製のテーブルと椅子が置かれ、建物周囲に植えられた花々を楽しむことができる。室内は明るく季節の花が活けられ、廊下や居間にはソファや椅子が配置され、利用者が思い思いのペースで過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を多く用意し利用者がその時々で好きな場所でそれぞれの時間が過ごせるよう配慮している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使いなれた家具や衣類を持ち込んで居心地よい環境作りを行っている	居室内の収納家具やテレビ等の電化製品などは、家族と相談して利用者の好みの物を用意してもらっている。壁には写真などの思い出の品や手作り作品などを飾り、仏壇を祀っている部屋もあり、それぞれ个性的で落ち着いた部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線の考慮した上でテーブルや椅子、その他物品の配慮を行って、トイレや入浴に関しても個々の身体能力に応じた環境作りを行っている		